

はじめに

Mさんと私は北海道大学の恵迪寮に昭和28(1953)年入寮、2年近く同室だった。彼は太平洋戦争敗戦直後の満州を生き抜いた引き揚げ者である。写真が好きでカメラを持ち歩いていたが、撮った写真を見せてもらった記憶はない。

そのMさんから1999年、ずしりと重い『Diarial Snapshots』が送られてきた。A4で厚さ3センチ。入寮以降45年間にわたって撮り溜めた15万コマから選んだ4,000カットを集めた写真日記である。

Mさんの人生の大半を、彼自身が撮り溜めた写真でたどるのは楽しいもので、次から次へと興味が尽きないが、何点かの写真で私の目は止まった。たとえば、当時北大構内でよく見かけた米国人のクエーカー教徒・レーン先生(写真27)は1921年以来北大で英語を教えていたが、41年12月8日の日米開戦と同時にポーリン夫人と共にスパイ容疑で逮捕され、それぞれ懲役15年と12年の判決を受け大通刑務所に服役、43年に交換船で帰国、1951年に北大の招きで再来日、夫人や令息と共に札幌の円山墓地に眠っている。しかし、戦中の忌まわしい思い出を忘れたかのようなくつろいだ風貌はMさんの写真でしか見られない。写真45の背景は帝国ホテルを設計したライトの弟子・田上義也の設計で1927年に建築された札幌北一条教会である。北海道を象徴する記念碑的建造物だったが1979年に取り壊された。また、写真59は大通りと駅前通りに面した当時の北海道拓殖銀行本店(写真60は増毛支店)で、09年に建設され59年に宮ノ森に移転し、2012年に解体された。

写真55の右手の車道脇の高い石碑の下半分に「札幌神社」とある。1920年の建立以来45年の敗戦まで、上半分には「^{かんべい}官幣大社」と書いてあったが、戦後、^{しんどう}国家神道の禁止とともに塗り潰され、64年以降、上半分は「北海道総鎮守」で、下半分の「札幌神社」は削り取られて「北海道神社」に変わっている。

私はMさんに、写真日記の中から歴史的価値のある写真を集めて公刊することを勧めたが、彼は一切を君に任せると言う。そこで私は恵迪寮の後輩の畏友・川原幸則君に相談を持ちかけたところ彼は大いに乗り気になって呉れて、古い写真の取り扱いなど、技術的問題の解決に始まって、編集、製本など一切を引き受けてくれた。

こうして出来上がった写真集を通覧すると、Mさんの写真に写る建物は、北大関係の数件と道庁の古い建物、北海道警察本部(現札幌市中央警察)以外、札幌駅(写真51)をはじめ、ほとんどは現在残っていないことに気付くのである。と同時に、民間の建物では、写真63の向って右、日本基督教団札幌教会だけが唯一現在に残る建造物だと知るのである。